

第 2 回 学生震災意識調査

創価学会 東北学生部

調査の背景

- ・2011年3月11日に発生した「東日本大震災」により、壊滅的な被害を受けた東北地方。本調査は、そこに暮らす学生が、未曾有の震災に直面し、今何を思い、どう立ち上がろうとしているのか——「3・11」後の日本の進むべきビジョンを考察する一助とすることを目的に、前回（H23年9月）に続き、実施した。
- ・対面式でのアンケートを実施し、実際に顔を突き合わせた対話の中から、学生の「生の声」を吸い上げるように努めた。

INDEX

▪ 調査背景	2
▪ 調査概要	4
▪ 調査学校一覧	5
▪ 回答者出身地一覧	6
▪ 回答者情報	7
▪ アンケート用紙	8
▪ アンケートの進め方	10
▪ (1) 被災地の今と風化	12
▪ (2) 震災とメディア	17
▪ (3) 震災と政治	20
▪ (4) 復興へ向けて	23
▪ (5) 震災からの教訓、教育	27
▪ (6) 震災と今後の社会	33

調査概要

- ◆調査手法：対面式
- ◆調査期間：2012年10月1日～11月30日
- ◆調査対象条件：東北地方の大学生、専門学校生
- ◆調査設計／調査地域：
アンケート配布数：3500
アンケート回収数：3140
- ◆調査主体：創価学会 東北学生部

調査学校一覧 合計63学校

【宮城】

東北大学、宮城教育大学、宮城大学、石巻専修大学、尚絅学院大学、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学、東北生活文化大学、東北文化学園大学、仙台大学、宮城学院女子大学、聖和学園短期大学、東北電子専門学校、東北文化学園専門学校、東北医療福祉専門学校、東北薬科大学、デジタルアーツ仙台専門学校、仙台コミュニケーションアート専門学校、東京法律専門学校、仙台高等専門学校、仙台医師会付属准看護学院、白石高等技術専門学校、日本デザイナー芸術学院仙台校

【青森】

弘前大学、青森公立大学、青森県立保健大学、青森大学、弘前学院大学、青森中央学院大学、八戸大学、八戸工業大学、八戸短期大学、青森明の星短期大学、東北女子大学、青森市医師会立准看護学院

【岩手】

岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、盛岡大学、富士大学、盛岡大学短期大学部、岩手看護高等専門学校、上野法律ビジネス専門学校、盛岡医療福祉専門学校、盛岡公務員法律専門学校

【秋田】

秋田大学、秋田県立大学、秋田栄養短期大学、ノースアジア大学、国際教養大学

【山形】

山形大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、山形県立医療保健大学、米沢女子短期大学

【福島】

福島大学、福島県立医科大学、日本大学、福島学院大学、郡山女子大学、いわき明星大学、東日本国際大学

回答者出身地一覽

【東北】 6県

青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県

【東北以外】 36都道府県

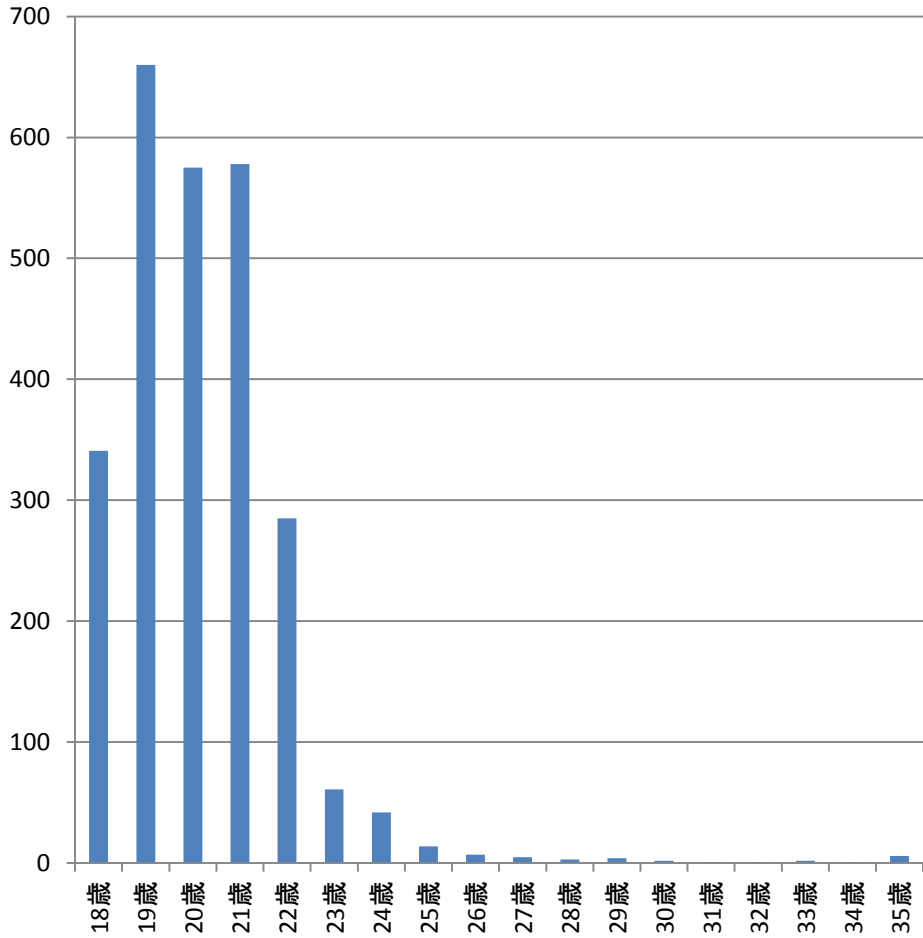
北海道、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、新潟県、長野県、富山県、石川県、山梨県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、和歌山県、福井県、奈良県、広島県、鳥取県、島根県、山口県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、宮崎県、長崎県、熊本県、鹿児島県

【海外】 5カ国

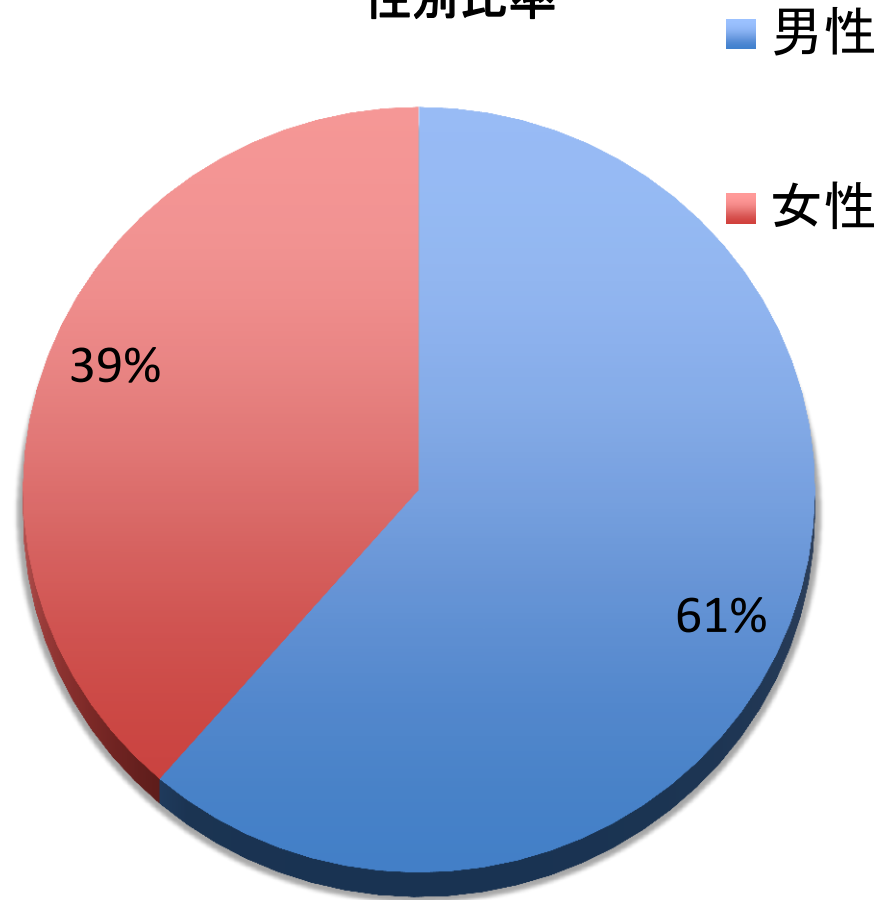
アメリカ、中国、インドネシア、台湾、マレーシア

回答者情報

年齢別回答分布数



性別比率



アンケート質問用紙(表面)

第2回「学生震災意識アンケート」

東日本大震災から1年半。未曾有の大震災と向き合っている東北の学生が今、何を考え、次代へ何を残していけるのか。皆さんの率直な声をお寄せ下さい。

はじめに

- 年齢・性別 _____ 歳 男性/女性
 学校・学部(専攻)・学年 _____
 出身地(市町村まで) _____
 現住所(市町村まで) _____
 「3・11」の時にいた場所(市町村まで) _____

〈被災地の今と風化〉

Q1) あなたにとっていつまでが震災ですか? 下記の選択肢から最も近い項目を一つ選び、

そう考えた理由を記入してください。

- (ア) 「3・11」から数日
 (イ) 「3・11」から1カ月くらい
 (ウ) 「3・11」から3カ月くらい
 (エ) 「3・11」から半年くらい
 (オ) 「3・11」から1年くらい
 (カ) 今も、これからも

【理由】

Q2) 震災を経験し、将来の職業(就職)に対する考え方の変遷についてお伺いします。

下記の中で、震災前と震災後それぞれについて、あなたが職業を選択する際の基準として該当する項目に○を付けてください。(複数回答可)

震災前	震災後	項目
		人のため
		生活の安定のため
		収入のため
		社会貢献のため
		やりがいのため
		自己成長のため
		遊び・趣味のため
		その他()

Q3) あなたは「被災者」に自分は含まれると思いますか? はい / いいえ

また、そう考えた理由を記入してください。

Q4) 今、震災復興に関する活動をしていますか? はい / いいえ

〈はい〉の場合、その具体的な活動を教えてください。

〈震災とメディア〉

Q1) 普段、あなたが目にするメディアは、被災地の現状を適切に報道していると思いますか?

はい / いいえ

〈いいえ〉の場合、あなたの考えに最も近い理由を下記の中から一つ選んでください。

- (ア) 過剰に脚色されている
 (イ) 本当に重要な問題が取り上げられていない
 (ウ) 報道の内容が偏っている
 (エ) その他()

Q2) 震災に関する重要なニュースに関して、あなたが最も参考にするのは、誰から発信された情報ですか? 下記の中から一つ選んでください。

- (ア) 専門家、学者
 (イ) 政治家
 (ウ) 行政
 (エ) 友人(SNS含む)
 (オ) 評論家(コメンテーター)
 (カ) タレント(芸能人)
 (キ) 匿名の情報(ネットの掲示板など)
 (ク) マスメディア(テレビニュースや新聞記事など)
 (ケ) その他()

〈震災と政治〉

Q1) 政治は復興に十分貢献していると思いますか? はい / いいえ

また、そう考えた理由を記入してください。

Q2) 政治に言いたいことを自由に書いてください。

〈復興へ向けて〉

Q1) 被災地の復興の進捗についてどう思いますか?
遅い
どちらかとい
うと遅い
どちらとも
言えない
どちらかとい
うと早い
早い

右図の中からあなたの考えに近いものを○で囲んで下さい。

Q2) 今後、復興を推し進めるために、必要な力(ちから)は何だと思えますか?

下記の中からあなたの考えに近いものを3つ選んで下さい。

- (ア) 政治家のリーダーシップ (ク) 国民の知恵、創意工夫
 (イ) 国の経済力 (ケ) 議論の場
 (ウ) 被災地の経済力 (コ) 科学力
 (エ) 国民一人一人の気概・意欲 (サ) 教育
 (オ) 被災地の人々の気概・意欲 (シ) 文化、芸術
 (カ) 日本全体の連帯 (ス) その他()
 (キ) 被災地の連帯

アンケート質問用紙(裏面)

Q3) あなたが通う学校は、次なる大地震へ向けて十分な準備が出来ていると思いますか？
はい / いいえ
また、そう答えた理由を記入してください。

Q4) 復興のために、学生としてできることは何だと思えますか？

〈震災からの教訓、教育〉

Q1) 「防災教育」についてお伺いします。これまであなたは、どこで防災教育を受けましたか？
下記の選択肢の中からあてはまるものを選んで下さい。(複数回答可)
(ア) 家庭(親から聞かされた話など)
(イ) 地域(町内会、近所の人からの口コミなど)
(ウ) 学校(授業や防災訓練など)
(エ) メディア(TVでの特番などを含む、防災に関する情報)
(オ) その他()
(カ) 特に受けてない

Q2) これまで受けた防災教育の中で、あなたが身に付いていると思うものは何ですか？
震災前、震災後それぞれについて「身に付いていた(身に付いた)」と思う項目を、下記の選択肢の中から選んで下さい。(複数回答可)

震災前	
震災後	

- (ア) 地震が起きたら頭を守り、机など下に身を隠す
- (イ) ガス栓や火元の確認
- (ウ) 避難場所・経路の確認
- (エ) 防災グッズの備蓄・管理
- (オ) 津波警報(注意報)が発令されたら、真っ先に高台に避難する
- (カ) 情報の確保
- (キ) その他()

Q3) 「3・11」の震災からの教訓(ハード面での)は何ですか？ 下記の中から最もあてはまるものを一つ選んで下さい。
(ア) 防災教育の重要性
(イ) 防災・減災の町作り
(ウ) エネルギー問題に関する知見
(エ) その他()

Q4) あなたは今、震災のことをどのようにして学んでいますか？ 下記の選択肢の中からあてはまるものを選んで下さい。(複数回答可)

- (ア) 新聞
- (イ) 雑誌
- (ウ) 震災関連の新書・単行本等
- (エ) テレビの震災特集番組を見る
- (オ) サークル活動を通して
- (カ) 自身の研究を通して
- (キ) NPO団体等の活動に参加
- (ク) 震災関連のシンポジウムに参加
- (ケ) インターネット
- (コ) その他()
- (サ) あまり関心がない

Q5) 震災後、東北以外の地域で発生した災害(例:関東で発生した竜巻、九州の集中豪雨など)を見る目は変わりましたか？
はい / いいえ
また、その理由を教えてください。

〈震災と今後の社会〉

Q1) 震災後の東北から発信できる精神的な価値は何だと思えますか？ 下記の選択肢の中から最もあてはまる項目を一つ選んで下さい。

- (ア) 助け合いの精神
- (イ) 生命尊重の思想
- (ウ) 「弱者」の側に立つ視点
- (エ) 逆境の中でも希望は見いだせること
- (オ) 人間のたくましさ、力強さ
- (カ) 人間のもろさ、卑しさ
- (キ) その他()
- (ク) 特にない

ご協力、大変に有り難うございました。今後、ご回答いただいた内容につきましては、集計・分析した結果をプレスリリース等を通じて発信してまいります。

アンケートの進め方①

- ◆ 今回のアンケートでは、「被災地の今と風化」「震災とメディア」「震災と政治」「復興へ向けて」「震災からの教訓、教育」「震災と今後の社会」という6つのカテゴリーを設けた。
- ◆ 自由記述の項目については、各設問において、回答された内容を複数人で議論した後、類似するものをカテゴライズし、大別。回答内容の上位のものをここでは取り上げた。
- ◆ 各設問ごとに総括を記した。

アンケートの進め方②

◆さらに、今回のアンケート分析では、所属するステータスをもとに、バックボーンの違いから見られる差違を示した。

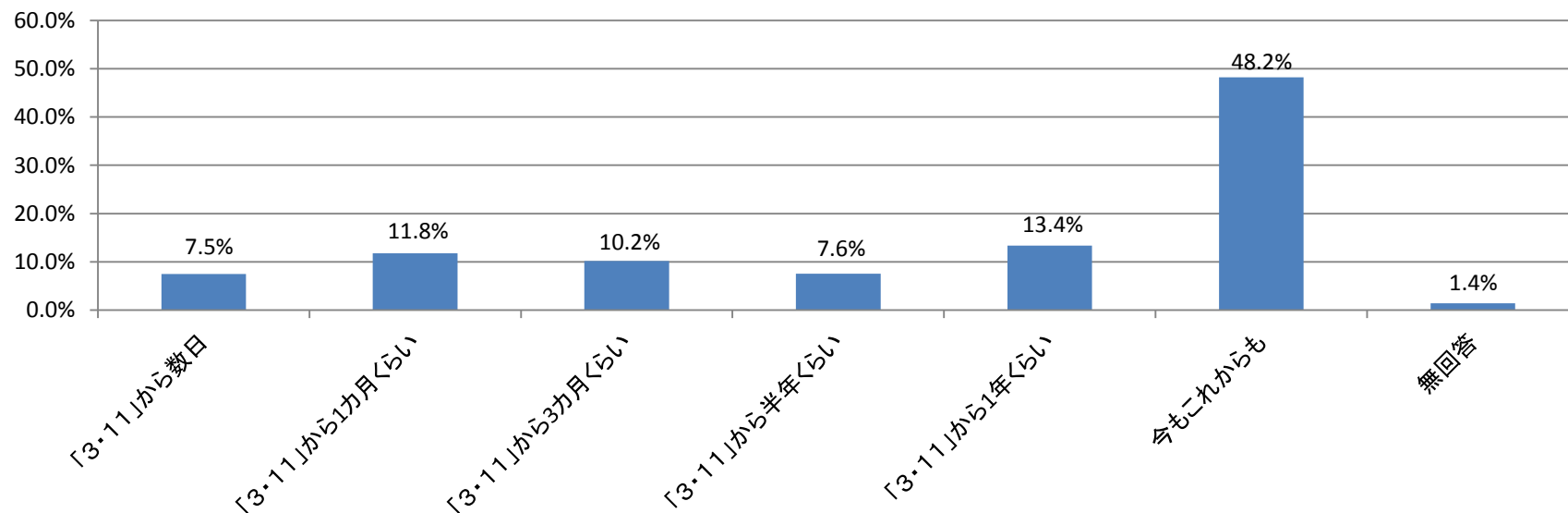
- 1、被災地に暮らす学生とそれ以外の学生
→今現在、東北被災3県(岩手、宮城、福島。以下、同じ)で学ぶ学生と、それ以外の3県(秋田、青森、山形)で学ぶ学生との間の差異について考察
- 2、被災地出身とそれ以外の学生
→被災3県出身と他の3県出身間の差異について
- 3、「3・11」の時にいた場所
→震災を経験した場所による違いを見る

【被災地の今と風化】

Q1)あなたにとっていつまでが震災ですか？

約半数の東北の学生が、震災はまだ終わっていないと感じている。それぞれの地域でライフラインが復旧し始めた時期が、「震災」の区切りと考えている学生の傾向も見られた。

項目名	全体	現在		出身		「3・11」の時にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
「3・11」から数日	7.5%	6%	9%	5%	9%	6%	9%
「3・11」から1カ月くらい	11.8%	14%	8%	14%	10%	14%	9%
「3・11」から3カ月くらい	10.2%	12%	8%	10%	10%	11%	9%
「3・11」から半年くらい	7.6%	8%	7%	7%	8%	8%	8%
「3・11」から1年くらい	13.4%	13%	14%	14%	14%	13%	15%
今もこれから	48.2%	46%	52%	49%	49%	47%	49%
無回答	1.4%	1%	2%	1%	1%	1%	2%



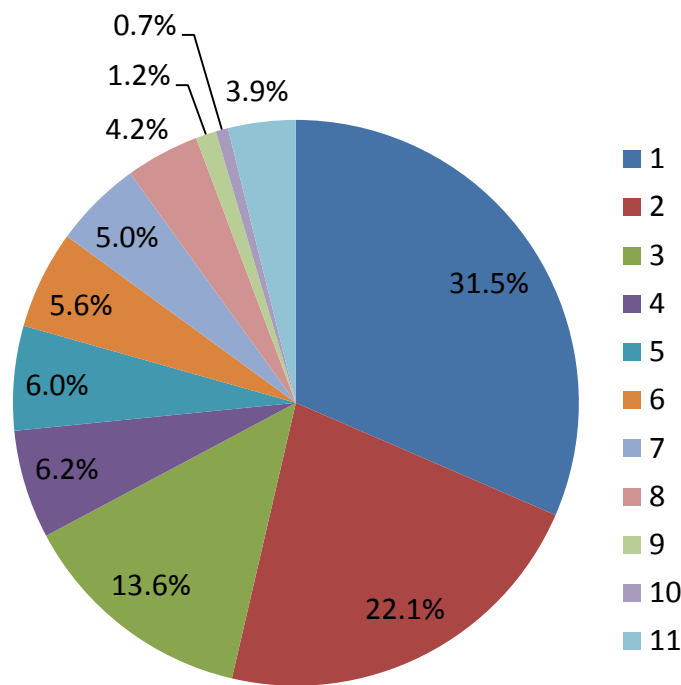
【被災地の今と風化】

Q1-②)あなたにとっていつまでが震災ですか？ その理由

約半数を占めた「今もこれからも」の理由としては、「がれき処理などの復旧作業が続いているから」が最多。次いで、「いまだに苦しんでいる人がいる」「被災者の心の傷が癒えたわけではない」など、自分以外を意識しての理由も多かった。

理由	割合
1.がれき処理や復旧作業がいまだに続いており、復興と呼べる状況にない	31.5%
2.仮設住宅で暮らすなど、いまだに苦しんでいる人がいる	22.1%
3.放射能の問題を不安に感じる	13.6%
4.被災者の心の傷が癒えたわけではない	6.2%
5.被災した時の様子がいまだに忘れられない	6.0%
6.震災を後世に伝えていかないといけない	5.6%
7.今も地震が頻繁に起こり、震災はまだ続いていると思う	5.0%
8.犠牲者や元通りにならない町並みや土地がある事実を忘れてはならない	4.2%
9.時間では区切れないから	1.2%
10.いまだにマスメディアで震災に関連したニュースが流れているから	0.7%
11.その他	3.9%

なぜ「今もこれからも」と思うか

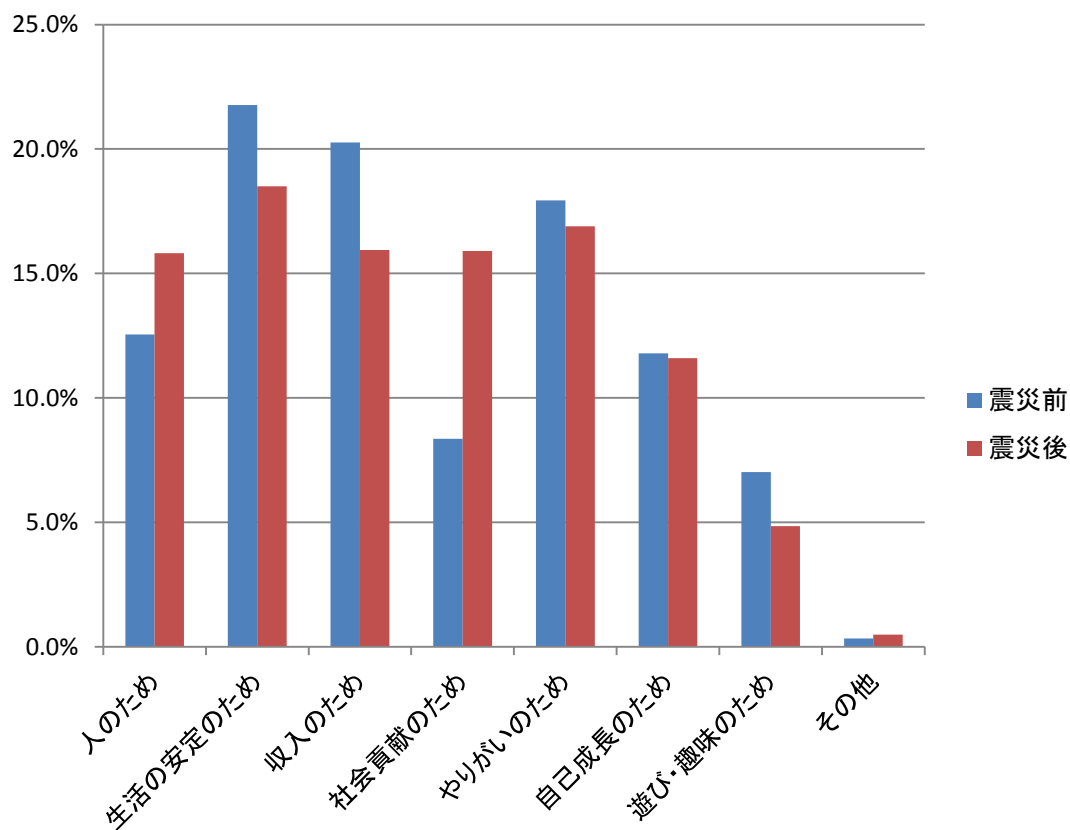


【被災地の今と風化】

Q2) 震災前後での就職観の変化について

第1回調査と同じ内容を問うた。前回に続き、就職を考える際に、震災前より「人のため」「社会貢献のため」との価値観を重視し、逆に「収入のため」「趣味のため」という考えに重きを置いていない傾向が伺える。

項目	震災前	震災後
人のため	12.6%	15.8%
生活の安定のため	21.8%	18.5%
収入のため	20.3%	15.9%
社会貢献のため	8.4%	15.9%
やりがいのため	17.9%	16.9%
自己成長のため	11.8%	11.6%
遊び・趣味のため	7.0%	4.8%
その他	0.3%	0.5%

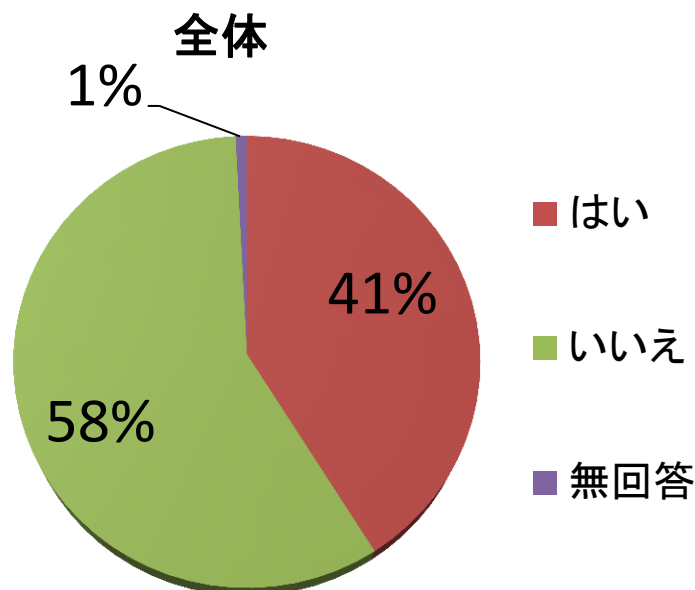


【被災地の今と風化】

Q3) あなたは「被災者」に含まれると思いますか

「被災3県で学んでいる」「被災3県出身」「3・11の際に被災3県にいた」学生がそれぞれ、もう一方の学生よりも当事者意識を強く持っている。また、約6割を占めた「いいえ」の理由としては、「被害が少ない」に続き、「自分よりもっと大変な人がいるから」との答える学生が多かった。

項目名	全体	現在		出身		「3・11」の時にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	41.1%	47%	30%	55%	29%	54%	29%
いいえ	58.1%	52%	69%	44%	70%	45%	70%
無回答	0.8%	1%	1%	1%	1%	1%	1%



「はい」の理由

- ・家族や友人をなくし、自宅を失ったから
- ・ライフラインがストップした生活を経験したから
- ・被災3県の出身である、または被災3県にいるから
- ・いまだに放射線の影響に悩まされているから
- ・被害の大小ではなく、皆が「被災者」だと思うから

「いいえ」の理由

- ・被害が少なかった
- ・自分よりもっと大変な人がいるから
- ・家族が無事だから
- ・今では普通の生活が送れているから
- ・「3・11」の時に被災地にいなかったから
- ・被災者ではあったと思うが、今は今も苦しんでいる人のために何かをしていく側だと思う

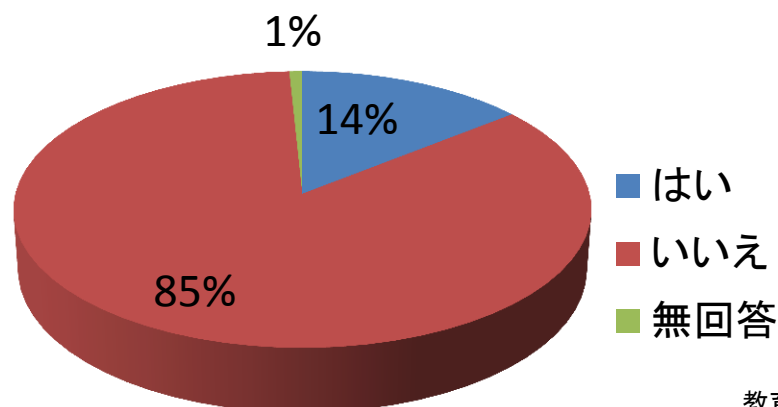
【被災地の今と風化】

Q4) 今、震災復興に関する活動をしていますか

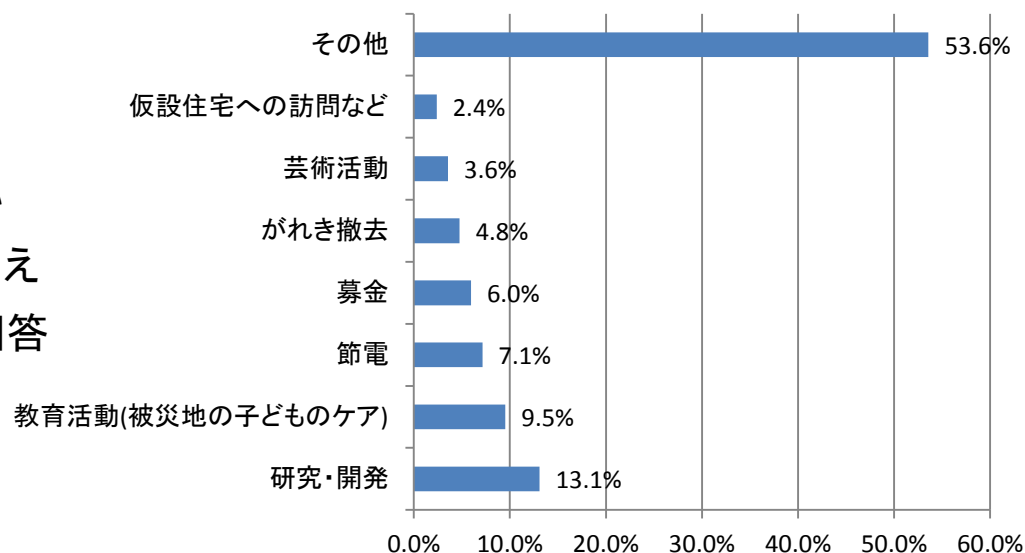
前回調査と比べ、震災復興に取り組む学生がかなり減少していることが伺える。ただその中でも、「被災3県出身」の学生の方がもう一方の学生よりも、今なお活動に取り組んでいる傾向が強い。

項目名	全体	現在		出身		「3・11」の時にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	14.3%	15%	13%	16%	13%	14%	14%
いいえ	85.0%	84%	86%	83%	86%	85%	86%
無回答	0.8%	1%	1%	1%	1%	1%	1%

全体



「はい」の場合 ボランティア活動の中身



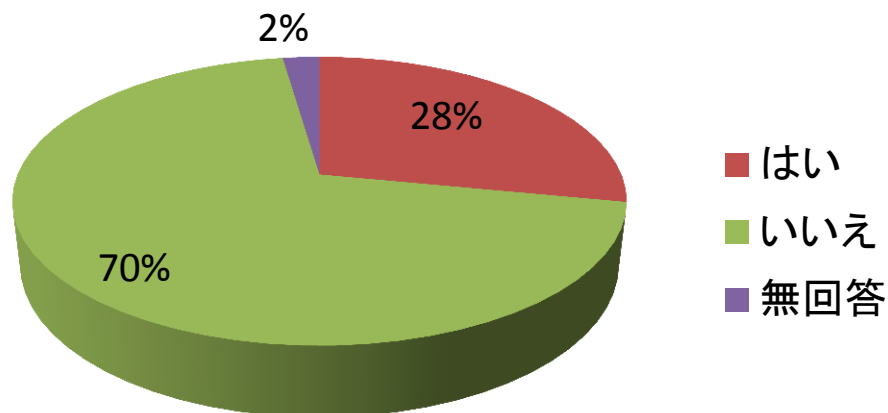
【震災とメディア】

Q1)メディアは適切に被災地の現状を報道しているか

約7割の学生が、メディアの被災地報道は適切ではないと回答した。「被災地3県で学んでいる」「被災3県の出身」「3・11に被災3県にいた」学生の方が、一方の学生よりもメディアの報道に対して否定的な考えを示していることがわかる。

項目	全体	現在		出身		「3・11」にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	28.0%	26%	31%	27%	33%	26%	34%
いいえ	69.6%	71%	68%	71%	66%	71%	65%
無回答	2.3%	3%	1%	2%	1%	3%	2%

メディアの被災地報道は適切か



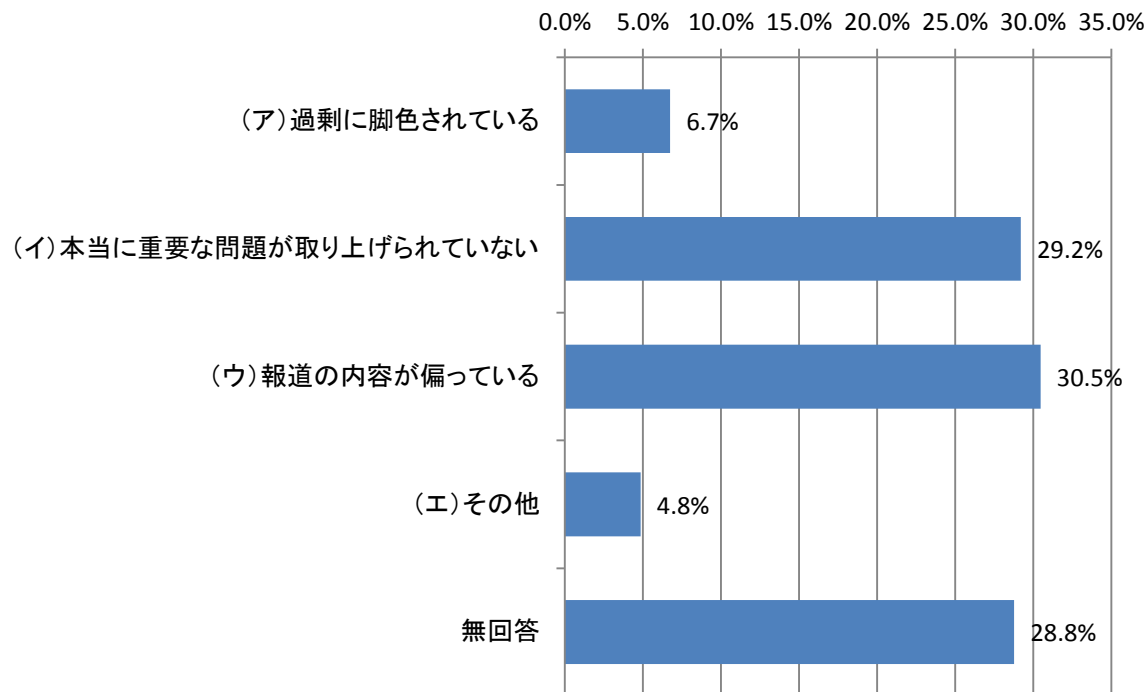
【震災とメディア】

Q1)メディアの被災地報道は適切か 「いいえ」の理由

メディアの被災地報道が適切ではない理由としては、「報道の内容が偏っている」が約30%で最多。次いで、「本当に重要な問題が取り上げられていない」と感じている学生が多かった。

項目	割合
(ア) 過剰に脚色されている	6.7%
(イ) 本当に重要な問題が取り上げられていない	29.2%
(ウ) 報道の内容が偏っている	30.5%
(エ) その他	4.8%
無回答	28.8%

「いいえ」の理由



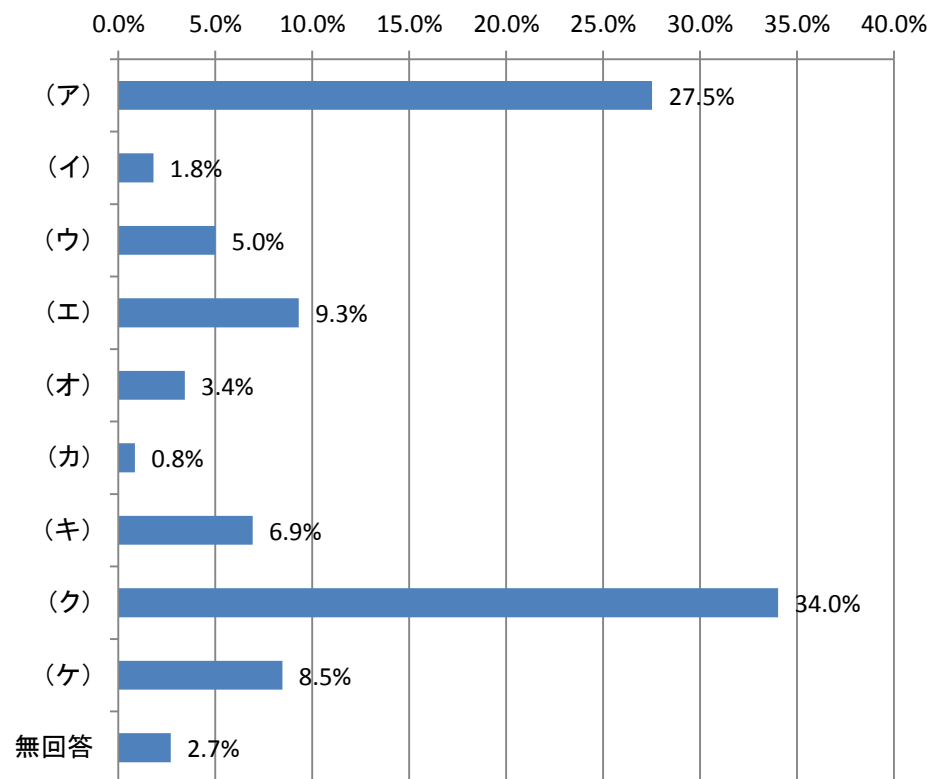
【震災とメディア】

Q2) 参考にするのは、誰から発信された情報か

学生が信頼する情報としては、テレビニュースや新聞記事などのマスメディアから発信される情報が34%と最多。「専門家、学者」からの情報が続いた。また、政治家、評論家、タレントなどの有名人よりも友人など身近な人物の情報にも信頼を寄せている傾向がある。

項目	割合
(ア) 専門家、学者	27.5%
(イ) 政治家	1.8%
(ウ) 行政	5.0%
(エ) 友人 (SNS含む)	9.3%
(オ) 評論家 (コメンテーター)	3.4%
(カ) タレント (芸能人)	0.8%
(キ) 匿名の情報 (ネットの掲示板など)	6.9%
(ク) マスメディア (テレビニュースや新聞記事など)	34.0%
(ケ) その他	8.5%
無回答	2.7%

参考にする情報



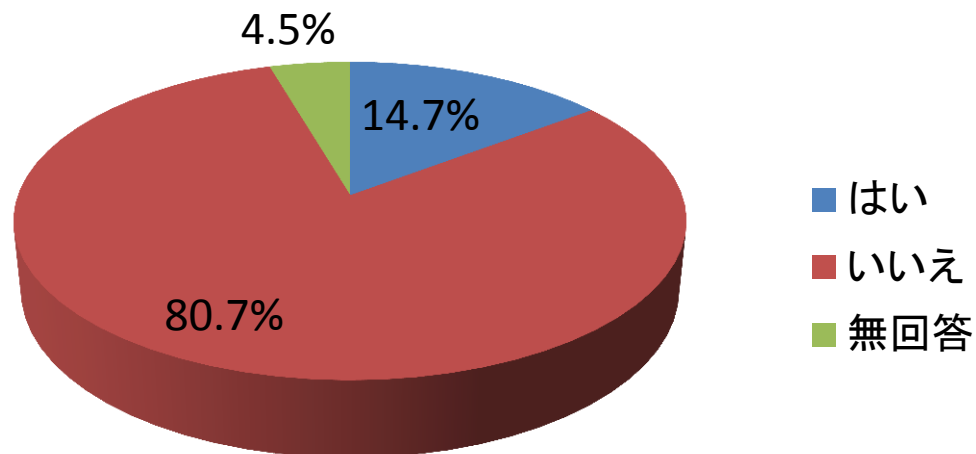
【震災と政治】

Q1) 政治は復興に十分に貢献しているか

8割を超える学生が、「政治は復興に十分に貢献できていない」と回答した。さらに、「被災3県で学んでいる」「被災3県出身」「3・11に被災3県にいた」学生の方がもう一方の学生よりも、その傾向を強く示している。

項目	全体	現在		出身		「3・11」にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	14.7%	13%	17%	13%	18%	13%	17%
いいえ	80.7%	82%	80%	83%	79%	83%	79%
無回答	4.5%	5%	3%	5%	3%	5%	3%

政治は復興に貢献しているか

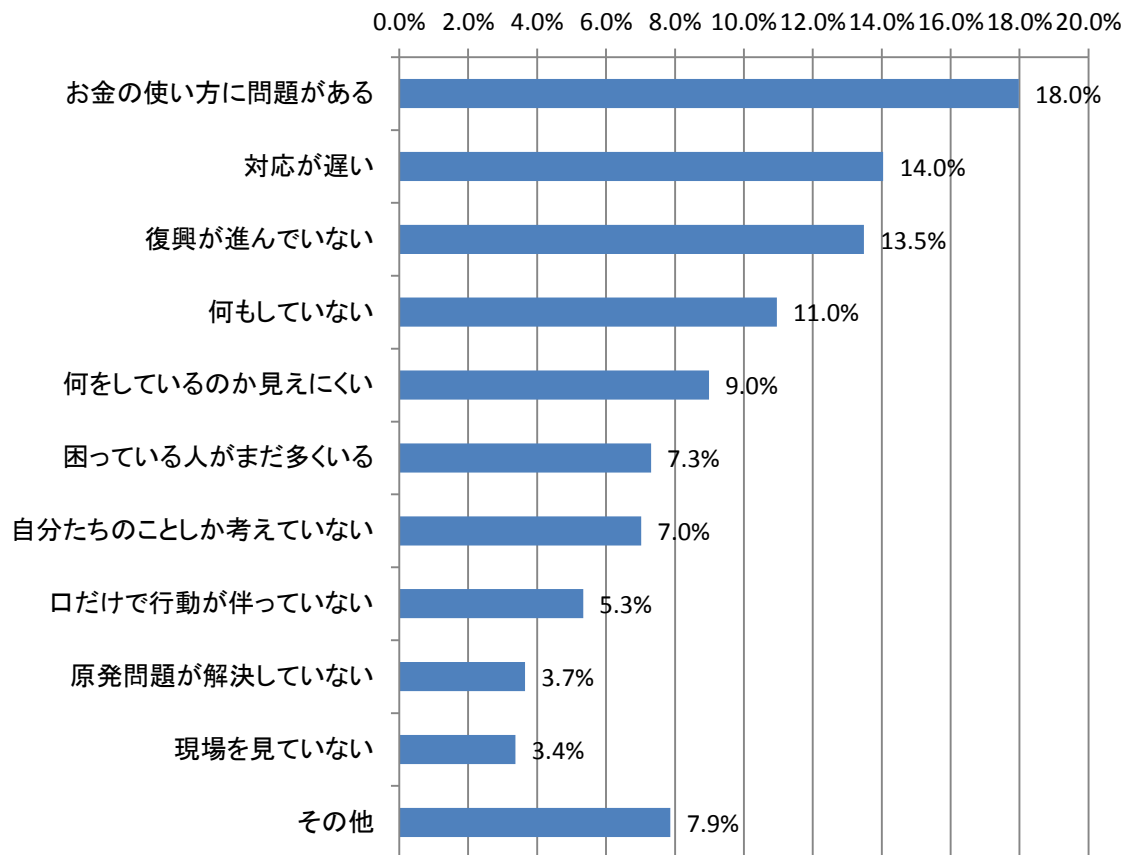


【震災と政治】

Q1) 政治は復興に貢献しているか 「いいえ」の理由

政治が復興に十分に貢献できていない理由としては、「お金の使い方に問題がある」が18%と最多。これは、アンケート調査実施している最中で発覚した「復興予算の流用問題」に起因していることが考えられる。次いで「対応の遅さ」が挙げられた。

項目	割合
お金の使い方に問題がある	18.0%
対応が遅い	14.0%
復興が進んでいない	13.5%
何もしていない	11.0%
何をしているのか見えにくい	9.0%
困っている人がまだ多くいる	7.3%
自分たちのことしか考えていない	7.0%
口だけで行動が伴っていない	5.3%
原発問題が解決していない	3.7%
現場を見ていない	3.4%
その他	7.9%



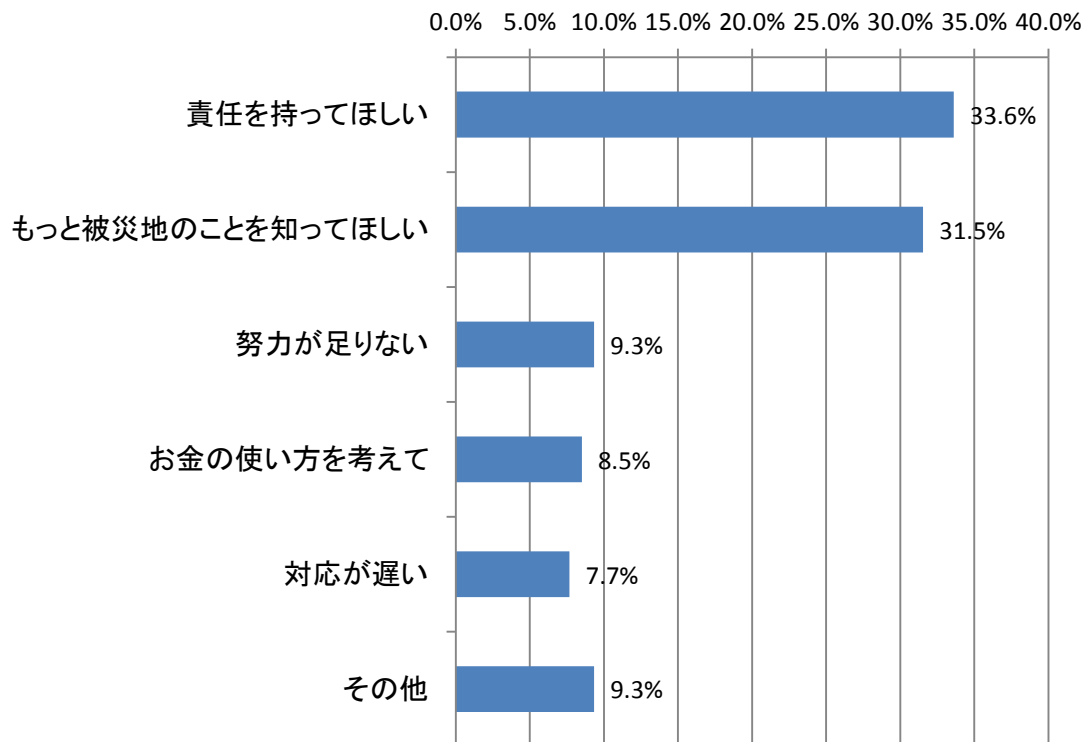
【震災と政治】

Q2) 政治に言いたいこと

政治に言いたいこととしては、「責任を持ってほしい」が33.6%と最多。他にも「努力が足りない」「対応が遅い」など、政治家の資質を疑問視する回答が目立った。被災地置き去りの政治を憂う「もっと被災地の現状を知ってほしい」との意見が2番目に多く挙げられた。

項目	割合
責任を持ってほしい	33.6%
もっと被災地の現状を知ってほしい	31.5%
努力が足りない	9.3%
お金の使い方を考えて	8.5%
対応が遅い	7.7%
その他	9.3%

政治に言いたいこと



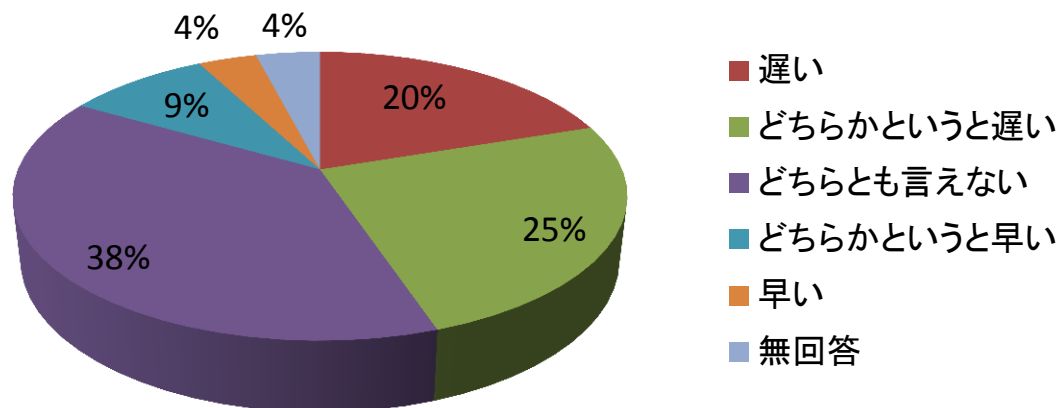
【復興へ向けて】

Q1)被災地の復興の進捗について

復興の進捗について、約45%の学生が「遅い」または「どちらかというが遅い」と回答した。「遅い」と答えた学生の内訳を見ると、「被災3県以外で学んでいる」「被災3県以外の出身」「3・11に被災3県にいなかった」学生の方が、もう一方のよりも強くその傾向を示している。

項目	全体	現在		出身		「3・11」にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
遅い	19.9%	16%	27%	19%	23%	18%	23%
どちらかというが遅い	24.9%	26%	23%	26%	24%	26%	24%
どちらとも言えない	38.5%	40%	36%	40%	37%	40%	37%
どちらかという早い	9.0%	11%	5%	9%	8%	10%	7%
早い	3.7%	2%	6%	2%	4%	2%	4%
無回答	4.0%	4%	3%	4%	4%	4%	4%

復興の進捗について



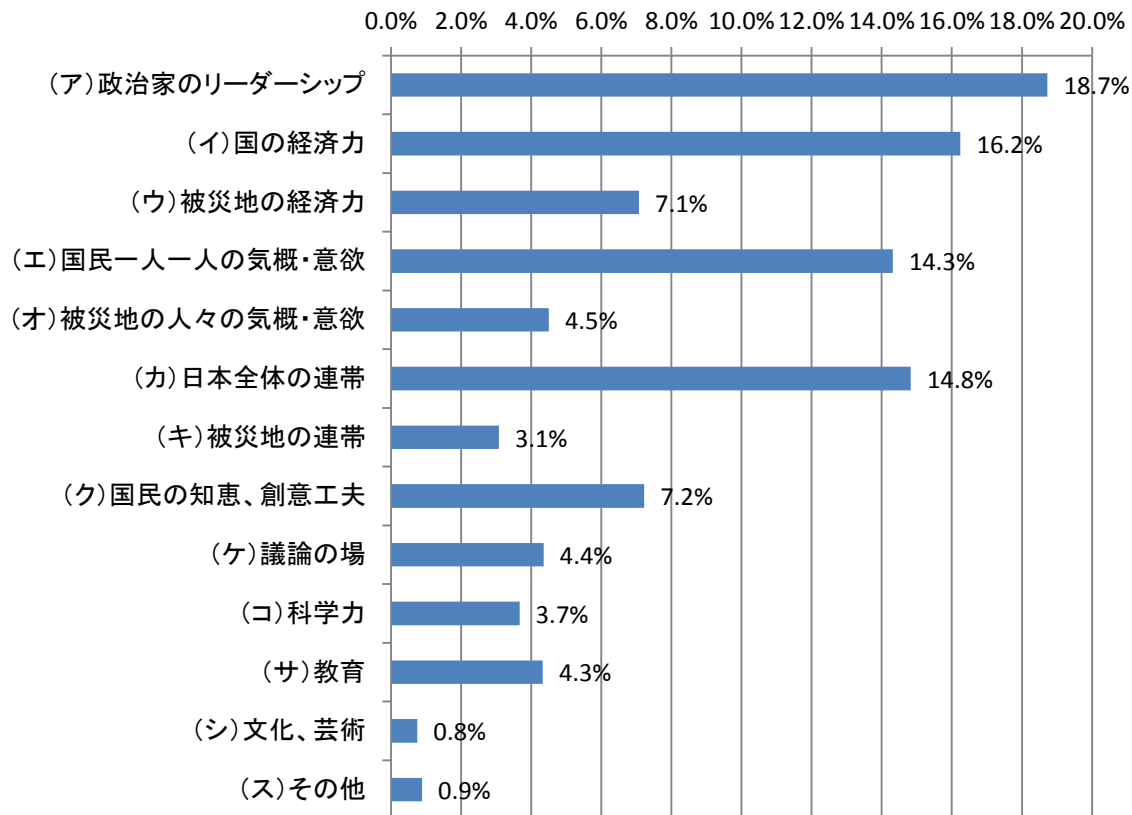
【復興へ向けて】

Q2) 復興を推し進めるために必要な力とは何か

復興を推し進めるために必要な力としては、「政治家のリーダーシップ」が18%超と最多。「経済力」「気概・意欲」「連帯」のそれぞれの項目について、力を入れて取り組む問題の焦点は、「被災地」よりも「国全体」と考えている。

項目	割合
(ア) 政治家のリーダーシップ	18.7%
(イ) 国の経済力	16.2%
(ウ) 被災地の経済力	7.1%
(エ) 国民一人一人の気概・意欲	14.3%
(オ) 被災地の人々の気概・意欲	4.5%
(カ) 日本全体の連帯	14.8%
(キ) 被災地の連帯	3.1%
(ク) 国民の知恵、創意工夫	7.2%
(ケ) 議論の場	4.4%
(コ) 科学力	3.7%
(サ) 教育	4.3%
(シ) 文化、芸術	0.8%
(ス) その他	0.9%

復興を進める力



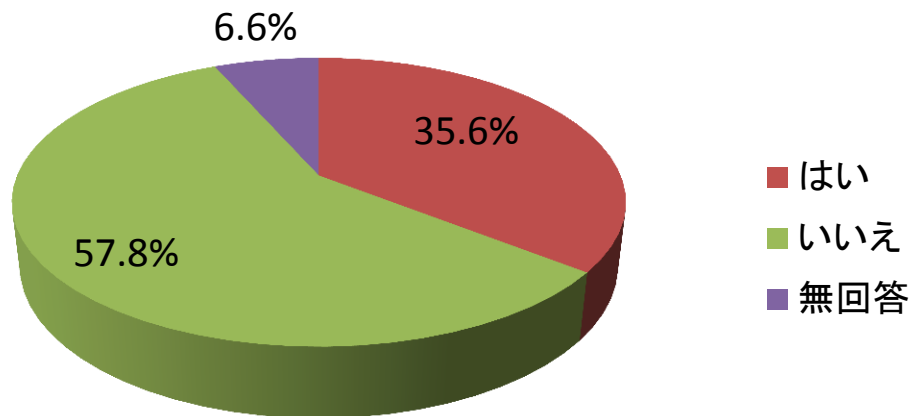
【復興へ向けて】

Q3)次なる大地震への備えをしているか

約6割の学生が、自らが通う学校の次なる大地震への備えは十分ではないと感じていることがわかった。内訳を見ると、「被災3県以外で学んでいる」「被災3県以外出身」「3・11に被災地にいなかった」学生の方がその傾向性が強くなっている。

項目	全体	現在		出身		「3・11」にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	35.6%	43%	24%	38%	30%	39%	29%
いいえ	57.8%	50%	71%	54%	65%	53%	67%
無回答	6.6%	7%	5%	8%	5%	8%	5%

学校の備えは十分か



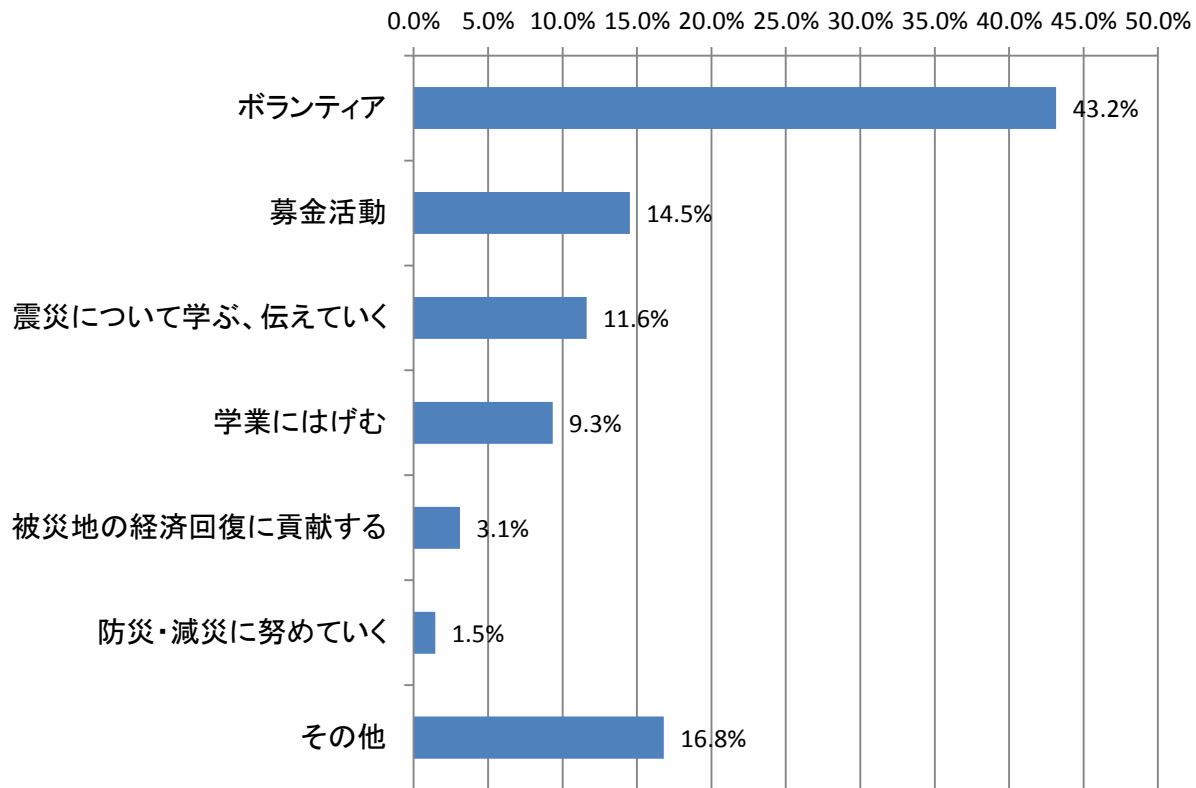
【復興へ向けて】

Q4) 学生としてできることは何か

復興へ向けて学生としてできることとしては、「ボランティア活動」と考えている学生が43%と最多。「震災について学ぶ、伝えていく」「学業に励む」など、学生ならではの回答も多く見られた。

項目	割合
ボランティア	43.2%
募金活動	14.5%
震災について学ぶ、伝えていく	11.6%
学業にはげむ	9.3%
被災地の経済回復に貢献する	3.1%
防災・減災に努めていく	1.5%
その他	16.8%

学生としてできること

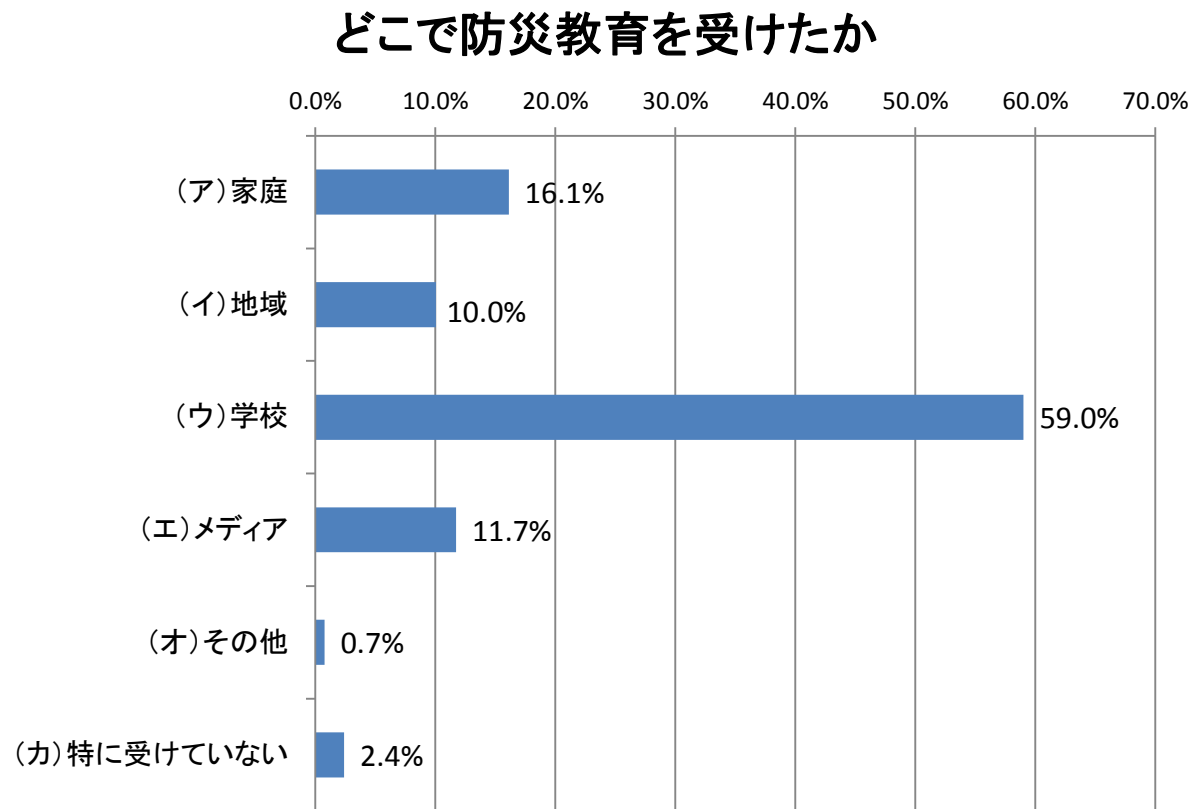


【震災からの教訓、教育】

Q1)「防災教育」をどこで受けたか

防災教育を受けた場所としては、「学校」が約6割を占めた。「家庭」「メディア」「地域」と続いた。

項目	割合
(ア)家庭	16.1%
(イ)地域	10.0%
(ウ)学校	59.0%
(エ)メディア	11.7%
(オ)その他	0.7%
(カ)特に受けていない	2.4%

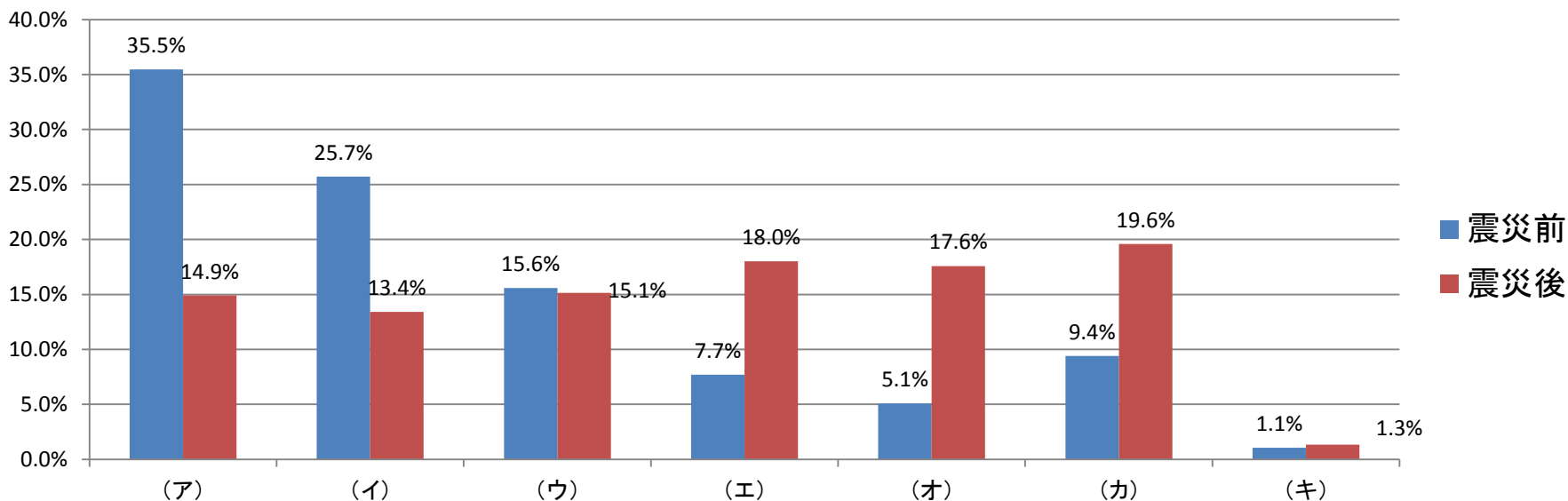


【震災からの教訓、教育】

Q2)「防災教育」の中身

震災前後で比較すると、「防災グッズの備蓄・管理」「津波警報が発令された真っ先に高台に避難する」「情報の確保」が大幅に増加したことがわかる。実際に震災を経験しての実感によるものであると考えられる。

項目	震災前	震災後
(ア)地震が起きたら頭を守り、机などの下に身を隠す	35.5%	14.9%
(イ)ガス栓や火元の確認	25.7%	13.4%
(ウ)避難場所・経路の確認	15.6%	15.1%
(エ)防災グッズの備蓄・管理	7.7%	18.0%
(オ)津波警報(注意報)が発令されたら、真っ先に高台に避難する	5.1%	17.6%
(カ)情報の確保	9.4%	19.6%
(キ)その他	1.1%	1.3%



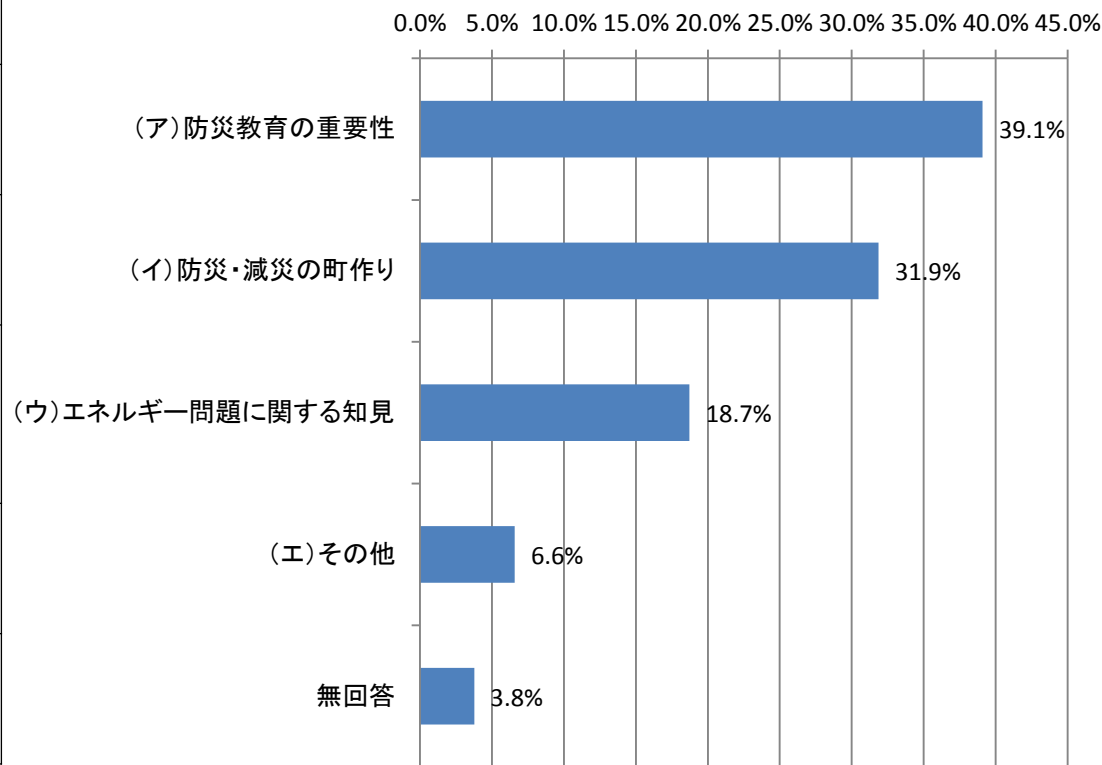
【震災からの教訓、教育】

Q3)「3・11」からの教訓は何か

「3・11」からの教訓としては、「防災教育の重要性」を挙げる学生が最も多かった。建物などのハード面と共に、ソフト面での復興が重要であると感じていることが考えられる。

項目	割合
(ア)防災教育の重要性	39.1%
(イ)防災・減災の町作り	31.9%
(ウ)エネルギー問題に関する知見	18.7%
(エ)その他	6.6%
無回答	3.8%

「3・11」からの教訓



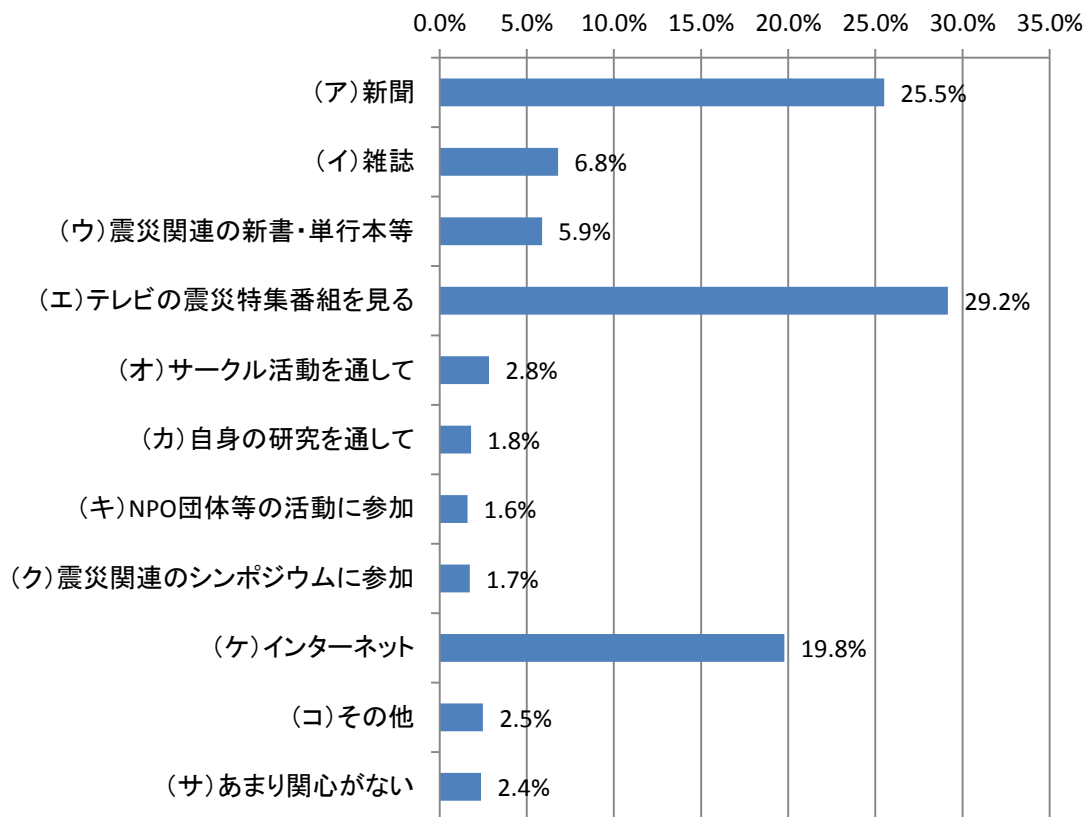
【震災からの教訓、教育】

Q4) 震災のことをどのようにして学んでいるか

テレビからの情報の収集が29.5%を占め、最も多かった。次いで、「新聞」「インターネット」と続いた。「サークル活動」「NPOの団体等の活動に参加」「震災関連のシンポジウム」に参加など、自ら行動を起こして学ぶ割合は少数だった。

項目	割合
(ア)新聞	25.5%
(イ)雑誌	6.8%
(ウ)震災関連の新書・単行本等	5.9%
(エ)テレビの震災特集番組を見る	29.2%
(オ)サークル活動を通して	2.8%
(カ)自身の研究を通して	1.8%
(キ)NPO団体等の活動に参加	1.6%
(ク)震災関連のシンポジウムに参加	1.7%
(ケ)インターネット	19.8%
(コ)その他	2.5%
(サ)あまり関心がない	2.4%

震災について学ぶ方法、情報収集



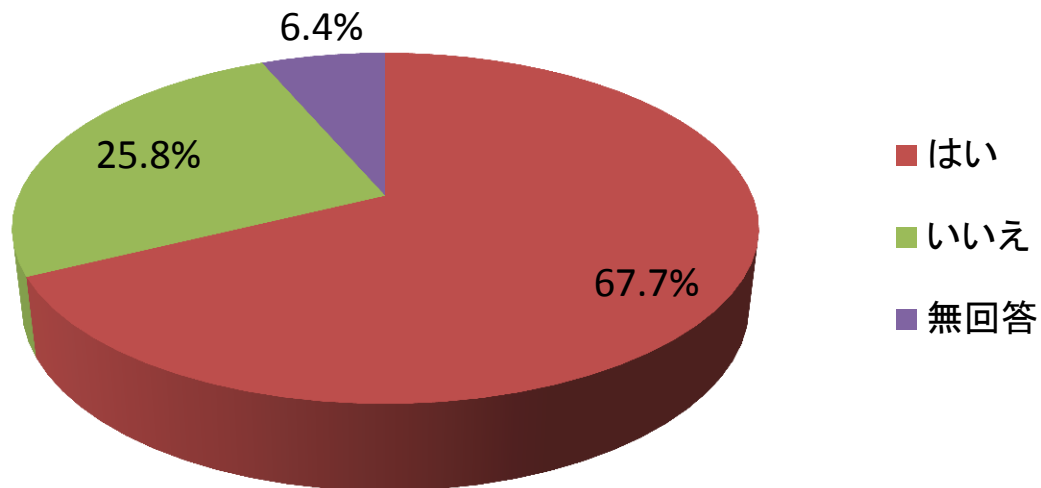
【震災からの教訓、教育】

Q5) 他地域で発生した災害を見る目が変わったか

約67%の学生が、震災以後、東北以外で発生した災害を見る目に変化があったと回答した。内訳を見ると、「被災3県で学んでいる」「被災3県の出身」「3・11の時に被災3県にいた」学生の方がもう一方の学生よりも、その傾向が強い。

項目	全体	現在		出身		「3・11」にいた場所	
		被災地学生	被災地外学生	被災地出身	被災地外出身	被災地	被災地外
はい	67.7%	70%	64%	71%	67%	71%	66%
いいえ	25.8%	23%	30%	22%	27%	22%	29%
無回答	6.4%	7%	5%	7%	6%	7%	5%

他の被災地を見る目は変わったか

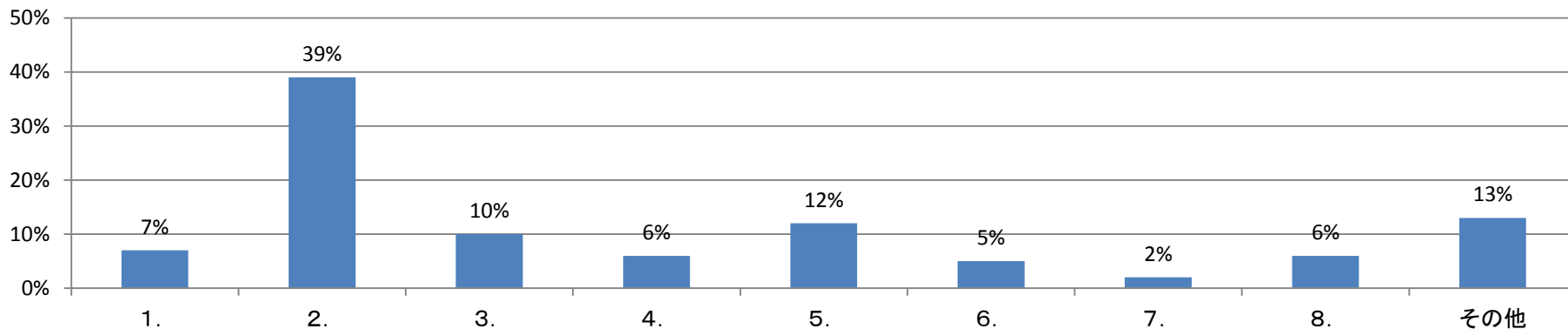


【震災からの教訓、教育】

Q5) 他地域で発生した災害を見る目が変わったか 「はい」の理由

他地域の災害を見る目が変わった理由としては、「以前より強く共感するようになったから」が約4割に。他にも「人の心境を推し量るようになった」「自分にも何かできることはないかと思うようになった」など、震災以前に増して他者への共感を抱き始めた東北の学生の傾向が見られる。

項目	割合
1. 震災のニュースを見るたびに過剰に反応するようになったから	7%
2. 他地域で起こることが人ごとと思えず、以前より強く共感するようになった	39%
3. 被災地に暮らす一人ひとりの心境を推し量るようになった	10%
4. 「自分にも何かできることはないか」と思うようになった	6%
5. 災害の恐ろしさを痛感したから	12%
6. 地震だけではなく、台風などその他の災害にも関心を持つようになったから	5%
7. 震災時の状況を重ね合わせるようになった	2%
8. いつどこで何があるかわからないとの危機感を持つようになったから	6%
その他	13%



【震災と今後の社会】

Q1)「3・11」後の東北から発信できることは何か

「3・11」後の東北から発信できる価値としては、「助け合いの精神」が約4割に上った。「人間のたくましさ、力強さ」「逆境の中でも希望は見いだせる」と続いた。被災現場に遭遇したり、避難所やライフラインが止まる中での生活を強いられる中で実感したことと思われる。

項目	割合
(ア) 助け合いの精神	39.4%
(イ) 生命尊重の思想	6.8%
(ウ) 「弱者」の側に立つ視点	9.2%
(エ) 逆境の中でも希望は見いだせること	11.1%
(オ) 人間のたくましさ、力強さ	17.3%
(カ) 人間のもろさ、卑しさ	5.6%
(キ) その他	4.0%
(ク) 特にない	3.5%
無回答	3.1%

